

ごあいさつ

平成 24 年 12 月 2 日、伊勢の津七福神霊場が盛大裡に開創されました。当地に於いて歴史的な一歩が踏み出されました。多くの善男善女の巡拝を拝見する度に心が改まります。

今後のご協力をお願い致します。

七福神霊場会会長

倉島昌行（四天王寺東堂）



初馬寺・観音寺・円光寺・地蔵寺・観音寺
高山神社・四天王寺・結城神社

西田久光友の会会長ごあいさつ

師走 2 日に津観音本堂にて開創法会が執り行われ、晴れて伊勢の津七福神霊場に性根が入りました。1 月末現在で満願された方が既に 400 名を超え、またその内かなりの割合が市外の方とお伺いし、素晴らしいスタートが切れたと大変喜んでおります。

開創法会の時に申し上げましたように、私は『大河ドラマ藤堂高虎』実現の願を立て年に 7 回、歩き七福神することをお誓いいたしました。12 月は翌 3 日・4 日、1 月は 10 日・11 日に巡拝。初年度は月参りを 6 月まで続け年 7 回の大満願を達成し、これを大河ドラマが実現するまで毎年続ける予定です。

霊場会会長の揮毫による七福神白衣に笠、杖のお遍路姿で歩いていると、沿道で激励の声をかけて下さる方があります。2 回目の時には南河路でお年寄りの男性が合掌して下さり、また八町通りでは中年女性から勧められ六阿弥陀『阿』堂にもお参りさせて頂きました。白衣を着ると不思議なもので、身が引き締まり気力がみなぎってきます。それに目立ちますから、白衣姿でお参りすることで「伊勢の津 七福神」の PR にもなるという、プラスαの功德を積むことができます。友の会会員の方で既に 20 余名が白衣をお持ちとのことですが、七福神霊場めぐりの白衣姿がどんどん増えていけば、必ず津の街も変わる……そんなことを夢見しています。巡拝の時には白衣姿をして下さいますようお願い致します。



しだれ梅まつりボランティア募集のお願い

2 月 16 日（土）～3 月 17 日（日）まで結城神社でしだれ梅まつりが開催されます。この機会に伊勢の津七福神巡りをお勧めしたいと思います。テントでの色紙や物品販売のお手伝いを友の会の方々をお願いしたいと思います。是非同封のはがきにご都合の良い日を記入の上、投函ください。

観梅祈願祭（かんばいしがんさい）のお知らせ

日時：平成 25 年 2 月 27 日（水）11 時から

会場：結城神社 社殿にて

内容：七社寺の方々が皆様の安全を祈願

是非お出かけください。

会員お得情報（会員証をお見せください）

- ・うなぎのつたや：100 円引き
- ・榊原館：日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材：花筒 5% 引き
- ・友の会だよりが届きます

巡拝 500 人目は白山町の中村さん

2 月 11 日朝、高山神社を巡拝された白山町八対野の中村さんご夫妻が、記念すべき 500 人目となりました。

記念の写真を撮らせていただきました。



七福神まいり

尾上さだ子（友の会会員）

1 月 17 日若い方達に誘って頂き七福神まいりに出かけました。先ず四天王寺様の大黒天のご朱印を頂き円光寺へ、由緒あるお江ゆかりの街、私は始めて訪れるお寺です。仏様古文書の数々ある堂内を丁寧に説明して頂くことが出来ました。穏やかな冬陽の差し込むお堂でお茶の接待を受けて、後の参拝の方々にお別れし地蔵寺へ。庵主様は朝からお待ちいただいたとのこと。先ずご一緒に般若心教をお唱えしご朱印を頂いたあと布袋様の御真言をお唱えし、お茶を頂きました。途中で遅い昼食をとり結城神社へ、梅のつぼみはまだ固く阿漕浦の潮風に送られて津観音寺へ。陽の落ちてきた仄暗いお堂の中の毘沙門天を目をこらして拝み

寄りくる鳩にさよならして初馬寺へ。夕刻もせまり今日はこれまでと皆さんとお別れしました。

それぞれのお寺様の優しいお接待、お心遣いが身に染み、街中では得られない豊かな心安まる一日を過ごさせて頂きました。有難うございました。



(左から2人目が尾上さん)

寄稿1 中村真一 (群馬県雲昌寺住職)

■「初夢」

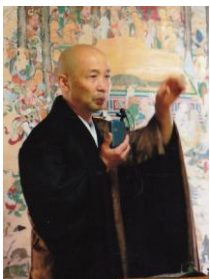
七福神とは、こいつは春から縁起がいい、恵比須・大黒天・毘沙門天・辯才天・福祿寿・寿老神・布袋尊と、大黒様と恵比須様は夫婦という説もある。辯天様は女性だろう。毘沙門天・福祿寿・寿老神・布袋尊は気がきではないなあ。七人の世界だ。皆神様だから我々とは違うか。

■「七福神」

恵比須・大黒天・毘沙門天・辯才天・福祿寿・寿老神・布袋尊は中国・道教の八仙、漢鐘離・張果老・呂洞賓・李鉄拐・韓湘子・藍采和・曹国舅・何仙姑の変化だという説もあるようです。またヒンズー教・道教・日本古来の神々の習合という説もあるようです。
*中村様は、竹山道雄執筆「ビルマの豎琴」の主人公水島上等兵のモデル雲昌寺前住職中村一雄氏のご子息です。(四天王寺東堂・友人)

寄稿2 竹林史博 (山口県龍昌寺住職)

■「七福神あれこれ」



『仁王経』の一節に「七難即滅七福即生」とある。よく大般若会の回向などでよみこまれる文句だが、この七福が七福神の起こりともいわれる。谷文晁は「狩野松栄以前に七福神の絵はない」という。松栄は秀吉の頃

の人。七福神については、徳川家康が天海から「七難即滅七福即生」の七福神は寿命・有福・人望・清廉・愛敬・威光・大量と聞き感心。狩野某に描かせたという伝承もある。「大量」は大度量か。昔の人は志が高い。

■「スイッチ」

「節電で心のスイッチ切り替える」ある雑誌に載った川柳である。江戸の七福神は何コースかあって、昔はもちろん徒歩。神様巡りで日常を離れ、日頃の反省にもなる。そこで改作「神詣 心のスイッチ 切り替える」

寄稿3 吉岡棟憲 (福島県円通寺住職)

■「原発事故さえなければ」

—福島からの叫び—



日本は変化する四季と自然に恵まれたどの国にも負けない美しい国です。空気や水、緑の大切さを先人たちが伝え、数千年も守り続けてきた素晴らしい環境の中で暮らせることを私たちは誇りとしてきました。そして、自分たちに恵みを与えてくれた故郷への感謝の念はいつまでも消えません。

こんな大切な故郷が一瞬にしてなくなってしまう悲劇が福島で起きているのです。理由もなく16万人もの人たちが故郷を追われ、見知らぬ土地での不自由な生活を強いられています。思い出の沢山つまった我が家、先祖さまの眠るお墓へも近づけないなど、その悲しみや苦しきは想像を絶するものがあります。

この原因は人間が作った東京電力原子力発電所の事故が、美しい自然を破壊し人の住めない地域をつくってしまったからです。

今後も同じ悲劇が起こり、大切なあなたの住む故郷がなくなるかもしれない。真剣に原発事故について考えてみませんか。

「原発のない福島を！」

とき：2013年3月23日(土) 11:00～

ところ：あづま総合体育館(福島市)

JR福島駅西口からシャトルバス運行

編集後記：節分の日に観音寺で七福神の広報をしました。多くの方が興味を持って下さいました。定期的にツアーを組みたいものです。(I)

会費振込先：郵便振替口座 00820-8-123136

伊勢の津七福神友の会

